

## 2020年度愛護会定期総会の開催（書面表決）について

日頃から、釧路市タンチョウ鶴愛護会にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。3月31日2019年度の事業がすべて終了いたしました。

当愛護会では、例年5月に阿寒国際ツルセンターのレクチャールームで定期総会を開催しておりますが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面表決といたしました。

総会のご案内は、毎年釧路市及び釧路管内在住者の方々に送らせて頂いております。

添付したハガキの書面表決書にご署名及び各議案への賛否をご記入いただき、5月10日必着で、書面表決書を愛護会事務局までご提出をお願いします。

議案の可決につきましては、ご提出いただいた書面表決書のうち、賛成が過半数を超えた場合に可決とさせていただきます。なお、4月24日役員会議を書面表決として行い、各議案については審議済みであります。

## 2020年度釧路市タンチョウ鶴愛護会総会書面議決の結果について

本年度の総会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面での議決とし、2020年5月1日必着で書面表決書をご提出いただきました。

その結果について下記のとおりご報告いたします。

2020年度釧路市タンチョウ鶴愛護会 総会議決結果  
書面表決提出者～73 総会員数～97

### 【議案】

第1号議案	……	2019年度	事業経過報告	賛成	73、反対	0、
第2号議案	……	2019年度	収支決算報告	賛成	73、反対	0、
第3号議案	……	監査報告		賛成	73、反対	0、
第4号議案	……	2020年度	事業計画(案)	賛成	73、反対	0、
第5号議案	……	2020年度	収支決算(案)	賛成	73、反対	0、

【結果】 全ての議案について、過半数の賛成をもって可決されました。

上記については、事実とそういないことを確認します。

2020年5月22日

議長 吉田 守人  
議事録署名人 大山 昇  
議事録署名人 高野 英弥



## 札幌圏で100年ぶり／人工湿地では初

札幌開港は20日、空知管内長沼町の舞鶴遊水地内で、国の特別天然記念物タンチョウの繁殖を確認したと発表した。専門家によると、札幌圏からタンチョウが消えて100年以上がたついているといい、「完全な人工湿地内での繁殖は初めて」としている。

調査を担当する専修道短大の正倉宏之監督教授(鳥類生態学)によると、遊水地に2017年から飛来するタンチョウのつがいが増えている。調査を担当する専修道短大の正倉宏之監督教授(鳥類生態学)によると、遊水地に2017年から飛来するタンチョウのつがいが増えている。

句、交代で卵を抱えるような行動を示し、ヨシ原に設けた巣の中に卵2個があるのを見つけた。今月24日には、ひな鳥が動いているのが確認された。

遊水地にはオシロフシやキツネ、アライグマなどの天敵が多く、ふ化から1カ月半後の生存率は3〜4割という。つがいは4歳前後で若く、最初の繁殖で2羽をかえしたとみられ、正倉教授は「来年以降も繁殖を続けるのでは」と期待する。

札幌開港と町は15年、「タンチョウも住めるまち」づくり検討協議会を設立。関係者は「遊水地の大部分は立ち入り禁止で、ルールを守ってほしい」と呼び掛けている。

舞鶴遊水地は、千歳川流域の総合治水対策として、同開港が千歳川放水路に代わって整備した千歳川遊水地群6カ所の一つ。最も早い15年度に完成し、他の5カ所も今年4月に供用を開始した。協議会はそのほかの遊水地もタンチョウの生息地になる可能性があるとして、

(土屋孝浩)

タンチョウひな2年ぶりに誕生  
丹頂鶴自然公園  
釧路市丹頂鶴自然公園(鶴丘)で飼育されている国の特別天然記念物タンチョウのひな1羽が生まれた。周囲でのひな誕生は2年ぶり。茶色のふわふわした羽毛に生まれ、訪れた人の目を惹きつけている。

雄タカアキ(21歳以上)と雌カイツ(34歳)の子。7日ごろに孵化したとみられ、同日に職員が確認した。体長約15センチ。親が地面を掘って捕まえたミミズや、同園が与える魚の切り身を親のくちばしから食べている。3カ月経つと、親鳥と同じ体長150センチ程度に成長するという。

(五十地隆浩)



親のくちばしから食べ物をもらうタンチョウのひな(釧路市動物園提供)

## 義足のタンチョウ 本格公開

### 釧路市動物園「自然との共生考えて」



足片脚がないタンチョウ(動物園で実際に使われているアルミ製の義足)



釧路市動物園は今春から、義足のタンチョウ5羽を本格公開している。同園には11羽のタンチョウがいるが、けがをした個体は一部しか公開してこなかった。アルミ製の銀色の脚で懸命に歩く姿を見てもうひとつ、来園者も自然との共生について考えてもらう狙いがある。(田村善久)

国の特別天然記念物のタンチョウの生息数は増加傾向にあり道東には千羽以上が生息している。一方で電線に絡まったり、近年は交通事故に遭ったりする個体が増えているという。けがや病気で環境省が保護・収容した数は2019年度、前年度より20羽多い53羽で過去最多だった。うち釧路市動物園に6羽が運び込まれ、義足を着けるなどの治療を受けた2羽は動物園でそのまま暮らしている。

タンチョウたちの義足を作っているのは同園の獣医師飯間裕子さん(39)。歩けなくなったタンチョウは時

間とともに筋力が落ち、飛べなくなってしまう。少しでも早く歩けるようにと、14年に獣科医院で使う素材やアルミパイプで人工の脚を作り始めた。ホームセンターで売っている滑り止めテープも使って改良を続け、義足作りを一手に担う。18年秋に1羽を初公開し、今年3月から本格公開に踏み切った。

治療したタンチョウは筋力が落ち、長く飛べないため。義足のタンチョウを見て、来園者から「かわいそう」との声もあるが、飯間さんは「義足の姿を見せることで、タンチョウとの共生について一般の人にも考えてもらいたい」と力を込める。